実践記録シリーズ 172

「変わりゆく分館活動」

薮神地区地域づくり協議会事務長　青木　昇

◎「まほろば」が造られるまで

昭和31年４月に初代公民館長が任命され、合併により空き屋となった薮神村役場の建物を、地域の拠点として活動することになりました。

当時の公民館長は、名誉職であり小中学校の入学式・卒業式、歓送迎会や婦人会・敬老会・青年会などの地域の催事には、必ずお祝いを持参して、参加したそうです。また、分館長宅で飲みながら語り合うなど多忙と経費のかかる職務でした。

そんな中、薮神地域に多くの人が一堂に会して話し合ったり、催事をする「コミュニティ」施設がないということから昭和58年第９代分館長が中心となり、地域のみなさんで行政に要望することになりました。

しかし、当時の財政事情と他の地域に同じような施設があることから必要ないという声もあり大変苦慮されたようです。それでも地域の皆さんの熱意と活動が認められ、昭和61年11月末に竣工式を挙げることができました。

現在のまほろば

「まほろば」の命名は、地域の皆さんから公募していただき選考されたもので、万葉集にでてくる古語で「美しく優れたよい場所」の意味です。

◎薮神地区を考える会の発足

昭和59年に県からコミュニティづくり運動推進地区の指定を受け「薮神地区を考える会」が発足され、会員70名で「まほろば」の建設のために調査・研究をし、施設の特色づくりや名称、自分たちの手で竣工式を実施するなど議論を重ねてきました。

「まほろば」の完成とともに地域の団体も活発になり、会議をはじめサークル活動・わら工芸・陶器づくり、イベントなどに利用されるようになりました。

昭和62年から始まった「ふれあい祭り」は、各種団体の協力を得てバザーや臨時店舗・11集落に割振りして芸能発表等を行ない楽しい一日を過ごしました。

◎もちつき大会と国際交流

昭和63年杵と臼で餅をつく風習が薄れたため、伝統文化を指導するため、小学校の体育館で臼と杵を16集め、地域の指導員やＰＴＡなどの協力を得て大会を実施することになりました。

市内には、国際大学があり国際交流を深めるため留学生を招き日本の文化を一緒に楽しみました。

第24回のもちつき大会

ギネスに挑戦するため臼の数を20にしたこともありましたが、登録されませんでした。

◎まほろば連絡協議会の改組へ

平成11年第11代分館長のときに「薮神地区を考える会」が一定の目的が達成されたため、そのＯＢ等の活動家だけによる協議会へと変わりました。

◎薮神地区地域づくり協議会

平成19年第13代分館長のときに合併により地域の隅々まで行き届かなくなるため、一部の公共事業を地域で協議して実施し、自分たちで提案できる事業を考えて行く組織が市から提案され分館事業と並行して実施することになりました。

平成20年長く続いた「ふれあい祭り」も婦人会組織の解散や地域づくり協議会の設置により廃止になってしまいました。

◎合同節分祭

「ふれあい祭り」を中止したため、新たに地域全体のイベントとして２月の第一日曜日に合同節分祭を実施し、子供たちやお年寄りに喜ばれています。

１７０名の参加者の節分祭